

【小学校国語】

全国を基準とした清水町の子供の領域別にみる学力の定着

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
国語	○	★★	○

これまでの取組の成果（十分な定着が見られる）

「話すこと・聞くこと」の領域では全国とほぼ同じ水準でしたが、目的や意図に応じて資料を使い話す力に強みが見られました。資料を活用するには「資料の内容を読み取る力」と「発表内容にふさわしい資料を選ぶ力」が必要となります。清水町の子供たちは、この二つの力がついていて考えられます。発表者としての力が高まっていることは清水町の子供たちが「聞き手」としての力も高いことを証明していると考えられます。



書き手がいちばん伝えたいことはこれだ!



「読むこと」の領域では、全国とほぼ同じ水準でしたが、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する力に強みが見られました。要旨を把握する際には、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような感想や意見などをもっているのかなどに着目することが重要です。清水町の子供たちは事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章全体の構成を捉える力が高いと考えられます。

これからの課題（定着が十分でない）

「書くこと」の領域では、成長の余地があることが明らかになりました。中でも「漢字を文の中で正しく使う」ということに課題が見られました。特に「原因」と答える問題は全国水準を大きく下回る結果でした。誤答例としては、「原」を音読みで同じ読み方をする「現」や「源」と解答したり、「因」を同じ部分をもつ「困」と解答したりする児童が多く見られました。読み方や字形に注意してくり返し練習している実態があるものの、漢字練習から離れても、自分が書いた文章の中で正しい漢字を使って書く力が十分に定着していない実態が考えられます。

習った漢字を使って書こう



「靴のかかとをそろえて」と言われたな。



成果を伸ばし、課題を改善する手立てなど

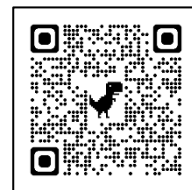
今回の結果から、問われている条件を正しく読み取る習慣が培われてきていることがわかります。これは、他教科での学びや日常生活を豊かにすることにもつながる力です。家庭でも子供たちと一緒に活動するときやお手伝いをお願いするときに、「その意図」や「条件」を意識して伝えてみてはいかがでしょうか。話を聞いたり、文を読んだりするときに「条件」を意識的に探すことにつながるはずです。

ささっきの説明とってもわかりやすかったよ!

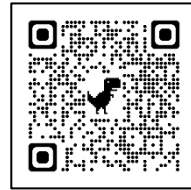


「話すこと」や「書くこと」については、相手意識をもつことも大切です。家庭で子供たちと会話をする際は、子供たちの話の後に感想を伝えると、「伝わった」という気持ちが大きくなります。感想を伝える際に「〇〇という表現がよかったよ。」と工夫している点に注目して感想を伝えると子供たちのやる気もアップするはずです。（「書くこと」についても同様です。）

右のQRコードから、学力・学習状況調査の問題・正答例を見ることができます。是非一度御覧ください。



国語問題



国語正答例

【小学校算数】

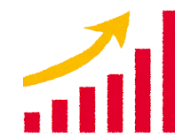
全国を基準とした清水町の子どもの領域別にみる学力の定着

	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
算数	★	★	★	○	★

これまでの取組の成果（十分な定着が見られる）

「変化と測定」の領域では、全国とほぼ同じ水準でしたが、「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する力」に強みが見られました。問題文や図に示されている速さや時間などを用いて問題を解く際には、問題場面から二つの数量の関係に着目しながら変化の規則性を捉える力が必要となります。問題場面から速さ、道のり、時間を単純に公式にあてはめて求めるだけではなく、数量の関係を捉えて式に表す力がついていて考えられます。

二つの数の変わり方は？公式は使えるかな？



「データの活用」の領域では全国水準をやや下回りましたが、「棒グラフから、数量を読み取る」問題では、十分な定着が見られました。棒グラフには、数量の大きさの違いを一目で捉えることができるというよさがあります。今回の課題では、グラフの目盛りの数値や最小目盛りの大きさを捉える力に強みが見られました。

これからの課題（定着が十分でない）

「数と計算」「測定」の領域で全国水準を下回る結果でした。課題となる領域について分析したところ、領域ごとに押さえたい学習内容については概ね押さえられているものの答え方の条件を満たしていなかったり、計算間違いがあったりする傾向が多いことがわかりました。国語の調査結果では「問われていることを読み取る力」については成果としてあげておりますが、この力は、国語以外の教科においても求められます。テストなどで「部分的には合っているのに…」「小さい順に数を並べるはずだったのに…」など、条件に適合せず、獲得されている知識や技能を正しく活用することができていない実態が考えられます。

問題で聞かれている条件に合っているかな？



成果を伸ばし、課題を改善する手立てなど

今回の結果から公式にあてはめて解を求めたり、グラフを正しく読み取ったりするなどの算数における基本的な知識や技能の積み上げがあることがわかります。今後も四則の計算や公式に当てはめて解を求めるような問題に関しては反復練習を習慣化していくことが大切です。各教科では、獲得された知識や技能を問う問題と、獲得された知識や技能を活用して解を求めようとする問題があります。このような応用的な問題については、問題を解く際に「見通し」をもつ習慣をつけることが大切です。「前回習った〇〇は使えるかな？」とこれまでの学習と問われている内容を結びつける力が重要になります。授業では、答えに迫るために友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりする機会があります。日常生活でも子供たちが自分たちで何かを解決しようとする機会があれば「どうしようか?」「どうしてそう考えたのかな?」などと解決方法の見通しやその理由を聞いてみることで、これまでの経験を次の行動に活かす習慣を身に付けることにつながります。

どうしてそう考えたのかな?



〇〇の授業で習ったことと同じだと思うんだ。

右のQRコードから、学力・学習状況調査の問題・正答例を見ることができます。是非一度御覧ください。



算数問題

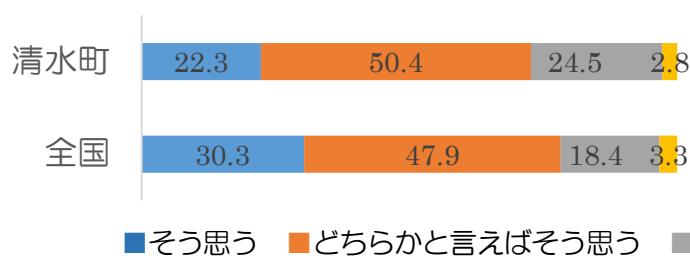


算数正答例

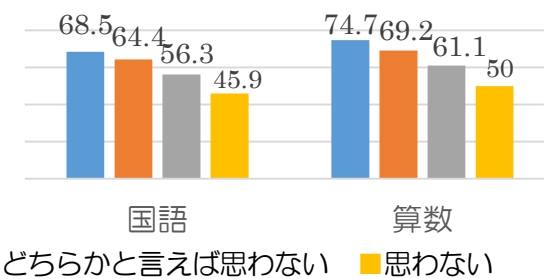
「目標とする自分の姿」になるために

児童質問紙調査の結果から、清水町の小学生が、課題の解決に向けて主体的に取り組むことの大切さがわかりました。データを基に傾向と対策について分析します。

資料1 「5年生までに受けた授業では、課題の解決にむけて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」



資料2 資料1の質問の回答と正答率の関連



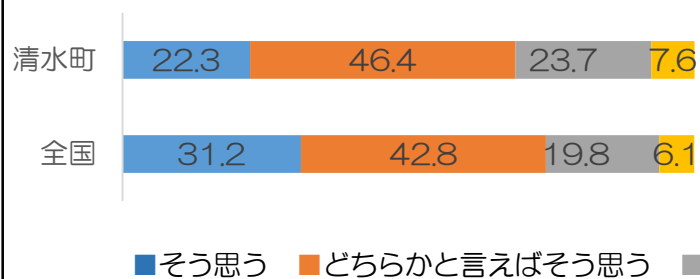
「目標とする自分の姿」とは 子供たちは「なりたい自分」に少しでも近づくために、個々で乗り越えたい問題や達成したい目標を考えて毎日生活をしています。



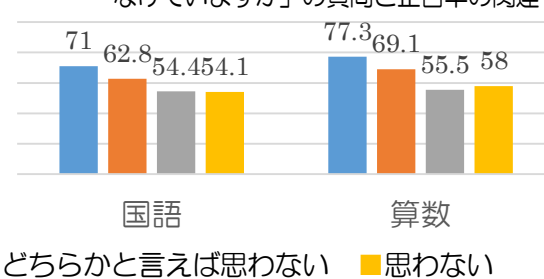
学校の授業でも同様に、その授業で解決したい課題を「学習問題」として設定し、自力解決の時間を設けたり、話し合いの場を設けたりして課題解決に向けて取り組みます。資料1からは、これまでの授業で課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んできたことと自信を持って言える子供たちの割合が全国と比較して少し低いことがわかります。

資料2と関連付けると、自分の課題としてしっかりと捉えて主体的に解決しようとしてきた子供ほど、正答率が高い関係にあることがわかります。

資料3 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」



資料4 「学習した内容を見直し、次の学習につなげていますか」の質問と正答率の関連



自分で計画を立てるには 資料3では、自分で計画を立てて家で勉強しているという子供の割合がわかります。自分で計画を立てるためには「自分にとっての課題は何か」を理解することが重要です。やるべきことが明確になると計画を立てやすくなります。一方で自分の課題を見つけるには時間も必要です。御家庭におかれましては、子供たちが自分にとっての課題を見つけ、向き合う時間を確保することで学ぶ力が身に付いていきます。

学んだことを次につなぐ力 資料4からは、「授業で学んだことを次の学習につなげている」子供ほど正答率が高い関係にあることを示しています。今日の学びは明日の学びの基礎となるものです。また、今日の学びが教科を横断し、他教科のもの見方や考え方にも好影響を与えます。また、教科に限らず、学級活動や行事など、学校生活で学んだことを活かし、「目標とする自分の姿」に一歩でも近いてほしいです。



「全国学力・学習状況調査から見る清水町の子供たち 2021」

編集 清水町授業力向上委員会 監修 清水町教育委員会（教育総務課） 発行 令和3年12月

全国学力・学習状況調査から見る

2021 小学校編

清水町の子供たち



清水町教育委員会は、授業力向上委員会を設置し、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査（以下「学学調査」といいます。）について、清水町の子供たちの傾向を分析しました。その結果についてお知らせします。

まずは、この調査の目的をご理解ください。

学力・学習状況調査の目的

教育施策の効果を検証する

・国や自治体が行っている教育施策について効果や改善点を分析し、よりよい教育環境を整える資料とします。

学習指導要領の定着を検証する

・学校教育で身に付ける学力の定着を検証し、子供が主体的に学び、学力を身に付ける授業づくりの資料とします。

学校・家庭・地域の連携を図る

・家庭や地域での子供の様子や、学力との関連性を分析し、三者が協力して子供の教育に当たる体制づくりの資料とします。

この目的を達成するため、学学調査は学力調査、児童・生徒質問紙調査、学校質問紙調査の3つの調査を行いました。国と県・町教育委員会及び学校には、それぞれの調査を関連付けて多面的に子供の学力や生活の様子を分析することが求められています。本紙では、主に学力調査と児童・生徒質問紙調査の結果をもとにした清水町の子供の学習と生活の状況についてお知らせします。

清水町の全体の傾向

「人が困っているときは進んで助けている」、「いじめはどんなことがあっても許さない」、「人の役に立つ人間になりたい」と考えている子供の割合がたいへん高いです。相手を思いやる気持ちを基礎として人権感覚が育ち、頼もしい社会の構成員となる資質が、清水町の子供たちに育まれていることは喜ばしいことです。



「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と感じている子供の割合が高いです。一方で「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と自信をもって言える子供の割合が低いです。学校、家庭、地域で子供たちの主体的な挑戦のあと押しをしたり、失敗を生かすことの大切さも伝えたりすることが必要です。